

外国語学部

教育研究上の目的

本学部は、国際都市横浜に立地する学部として、外国語の実践的な運用能力を高め、諸外国の社会及び歴史等、異文化についての理解を深めるとともに、異文化間の相互理解と文化交流を行える国際的な教養を身に付けた人材の育成を目的とする。

教育目標

外国語学部では、本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、実践的な外国語運用能力と対象地域の諸分野に関する知識の獲得を目指した専門教育を展開し、それらと初年次教育、キャリア教育、教養教育、言語教育を含む全学共通の基礎教育とを有機的に関連させることにより、国際的な文化交流の場で活躍し得る有為な人材の育成を目指します。

本学部の専門教育の特徴として挙げられる、少人数教育、双方向型教育、習熟度別クラス編成を活用して、国際的な場で行動する際に必須な情報収集と発信能力、およびコミュニケーション能力を涵養します。また、対象地域の言語・文化・社会・歴史の各分野について優れた研究業績と豊富な教育経験を有する教員の指導により、急速に変化する国際情勢にも柔軟に対応可能な、幅広い教養体系の構築を図ります。以上を教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー(学位授与の方針)

本学部のカリキュラム(全学共通の教養・外国語科目を含む)において、所定の卒業要件単位を修得した者は、次のような人物であると判断し、学士(文学)の学位を授与します。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1)文化の異なる人々ともその違いを乗り越えて互いに尊重し、協調し合う態度を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1)外国語の実践的な運用能力を身につけている。

(2)異文化コミュニケーション能力を身につけている。

(3)国際的な感性と幅広い教養を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1)世界諸地域の言語・文化・社会・歴史についての専門的知識を備えている。

(2)情報収集と情報発信(プレゼンテーション)の能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)

本学部は、外国語の実践的な運用能力、異文化コミュニケーション能力、国際社会に通用する専門的知識と幅広い教養、協調的な態度を総合的に修得することができるように、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1)少人数による数多くの外国語演習を編成し、実施しています。

(2)世界諸地域の言語・文化・社会・歴史についての専門的知識を修得する専攻科目ならびにゼミナール・卒業研究を配置しています。

(3)初年次教育、キャリア教育を含む全学共通の教養教育と本学部の教育が有機的に関連するよう体系的な教育課程を編成し、実施しています。

2. 教育の方法と評価

- (1)外国語教育やゼミナールにおいて、少人数教育、双方向型教育を実施しています。
- (2)外国語教育においては、習熟度別にクラスを編成し、個に応じた教育を実施しています。
- (3)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

1.大学教育によって培う能力

本学部は、外国語の実践的な運用能力を備え、諸外国の文化、社会及び歴史を理解し、異文化間の相互理解と文化交流を行える、技能と知識、態度を身につけた人材を育成します。

2.本学部の求める入学者

- (1)基礎的な学力を有し、外国語の学修に関心と意欲を持っている人。
- (2)世界諸地域の言語・文化・社会・歴史に関心を持ち、諸外国の人々と国際的な交流を深めたいと思っている人。
- (3)国際的な感性と幅広い教養を身につけたいと思っている人。

3.高校までの能力に対する評価(選抜方法)

- (1)一般入試、給費生入試、大学入学共通テスト利用入試では、外国語学部での学修に必要な基礎学力を、高等学校での学習の達成度をもとに判断します。ただし、給費生試験では書類審査を含めて総合的に判断します。
- (2)学校推薦型選抜である指定校制推薦入試と、総合型選抜、公募制自己推薦入試があります。指定校推薦入試では、勉学意欲に富み、指定校の学校長から推薦された人に対し、面接による選考を行います。総合型選抜では、本学において積極的に学ぶ意志を持ち、外国語の運用能力向上や外国の文化や歴史に強い興味と関心がある人に対し、小論文、面接または適性検査等により選考を行います。公募制自己推薦入試では、外国語の運用能力を持ち、その実績が顕著な人、外国の文化や歴史に強い興味と関心があり、コミュニケーションをはかることに意欲的な人に対し、書類審査、面接等による選考を行います。